

2020年3月19日

## 2019年度 日本機械学会 宇宙工学部門 部門賞・一般表彰

宇宙工学部門長 田中 宏明

2019年度の日本機械学会 宇宙工学部門の部門賞および一般表彰として、以下の方々に賞をお贈りすることといたしました。受賞者の皆さま、おめでとうございます。

名称	受賞者 / 受賞理由
部門賞—功績賞	<p><b>岸本直子氏 (摂南大学)</b></p> <p>第95・96期の宇宙工学部門 部門長を務め、同部門の発展・活性化に寄与するだけでなく、展開宇宙構造物や高精度計測技術、生物の形に学ぶ構造物デザインの研究・教育を通じて、長年にわたり日本の宇宙工学の発展に貢献した。</p>
部門一般表彰 スペースフロンティア	<p><b>SLATS プロジェクトチーム (宇宙航空研究開発機構)</b></p> <p>超低高度衛星技術試験機「つばめ」(SLATS)の開発/運用を行い、世界で初めて超低高度軌道(271.5km~167.4km)からイオンエンジンを用いた光学観測や半年にわたる大気密度や原子状酸素に関する観測を実現することで、地球観測における新たな利用の可能性を拓き、日本の宇宙工学の発展に貢献した。</p>
	<p><b>「再使用高頻度宇宙輸送システム」空力研究チーム (横浜国立大学, 宇宙航空研究開発機構)</b></p> <p>ロケット周囲流れや機体にかかる空気力の実験的、解析的評価など、「再使用ロケット」「イプシロンロケット」等の国産ロケット開発に資する空力研究を行い、日本の宇宙工学の発展に貢献した。</p>
	<p><b>久保田孝氏, 吉光徹雄氏 (宇宙航空研究開発機構)</b></p> <p>世界初の小惑星探査ローバの研究開発に取り組み、小惑星探査機「はやぶさ2」に搭載した探査ローバ「ミネルバ2」において、ホッピングというユニークな移動メカニズムを実現、未知環境での自律的な行動を可能とすることで、日本の宇宙工学の発展に貢献した。</p>
	<p><b>河野功氏 (宇宙航空研究開発機構)</b></p> <p>準天頂衛星と静止衛星を組合せた地域衛星測位システム(日本版GPS)の考案、cm級測位を実現する高精度測位信号の設計と実装など、準天頂衛星「みちびき」による高精度測位システムの実現において重要な役割を果たし、日本の宇宙工学の発展に貢献した。</p>